

市議会議員へのアンケート回答

新しく選出されました八王子市市議会議員の皆様へのアンケートを実施した結果、公明党の西本氏、生活者ネットワークの前田氏・木田氏、諸派の若林氏より返答をいただきました。いただいた貴重なご意見を一覧で掲載いたします。様々なご意見、問題提起をいただきました。今後の活動の参考にさせていただくとともに、今後とも連携をしながら誰もが住みやすい街づくりを目指していきたいと思っております。ご回答をいただいた皆様、お忙しいところを大変にありがとうございました。(回答は201911007現在)

お名前	防災について	バリアフリー化について	差別について	共生型社会	就労について	福祉サービス	働く人のメンタルヘルスケアについて	その他
西本 和也	<p>平成30年12月より、八王子市では災害等における停電時に電力を確保するため、在宅人工呼吸器使用者に対し、自家発電機の給付をはじめました。今後は、痰の吸引など生活の中で電源を必要とするケースに対応できるよう、自家発電機給付対象者の拡大を目指します。</p> <p>また、災害時において最も必要とされるものの一つとして、「正しい情報」があげられますが、市が発信する防災行政無線の内容を自動的に電源が入り時に受信する「防災行政無線ラジオ」の導入を目指したいと考えています。市内には約600か所の防災行政無線が設置されていますが、場所によっては自宅で聞こえづらいところもあることから、防災ラジオが有効であると考えます。</p> <p>医療的ケアについては、日ごろからかかりつけ医との連携が必要であることから、具体的な課題などはご提案いただけるとうれしく存じます。</p>	<p>情報の格差をなくす情報のバリアフリー化は、大変に重要な課題であると認識しています。精神障害の方や知的障害の方に、しっかりと寄り添ってサポートする心ある対応が必要であると考えます。地域ケアシステムが動き始めたところですが、介護を主とした高齢者対策といった側面だけでなく、支援を必要とするすべての方を対象として、地域で支えあっていける仕組みづくりが必要ではないでしょうか。その枠組みの中で、成年後見制度など従来の制度を活用しつつ、情報の格差をなくすバリアフリーの取り組みが行われるようになっていければよいのではないかと考えます。</p>	<p>お互いを知る努力を惜しんではいけないと考えます。そうした風土を作っていきたい。</p>	<p>地域を支えている中核となる方々との連携が重要であると考えます。地域の核としては、町会・自治会、民生児童委員、行政委員、住民協議会、地域包括支援センターなどがあげられます。これらの関係する方々と、継続的な意見交換を行っていかれてはいかがでしょうか。</p>	<p>障害の有無にかかわらず、どなたも自分に合った(希望する)職業を見つけることは難しいのではないのでしょうか。そのうえで申し上げますが、雇用の条件の充実を目指していくことが先ず求められることであると考えます。障害者の方々も、多に働いてもらいたいと思っています。</p>	<p>福祉サービスの拡大・拡充は、大変に大切な課題であると考えています。やはり、この課題についても地域で検討を重ねていくことが必要ではないでしょうか。</p>	<p>福祉現場で従事されている方々のお給料を増額する必要があると考えています。10月から、税と社会保障の一体改革の本丸である、消費増税が始まります。これを財源として、福祉の現場にもしっかりと財源を回していくことが必要と思っています。</p>	<p>障害者手帳をお持ちの知り合いの方から、手帳方式ではなく、カード(免許証サイズ)方式にしてほしいとのご相談を寄せてこられたのですが、東京都の回答は、障害者団体はどのようにお考えであるかと逆に東京都から聞かれました。ご意見をお聞かせください。</p>

市議会議員へのアンケート回答

新しく選出されました八王子市市議会議員の皆様へのアンケートを実施した結果、公明党の西本氏、生活者ネットワークの前田氏・木田氏、諸派の若林氏より返答をいただきました。いただいた貴重なご意見を一覧で掲載いたします。様々なご意見、問題提起をいただきました。今後の活動の参考にさせていただくとともに、今後とも連携をしながら誰もが住みやすい街づくりを目指していきたいと思っております。ご回答をいただいた皆様、お忙しいところ大変にありがとうございました。(回答は2019年11月現在)

お名前	防災について	バリアフリー化について	差別について	共生型社会	就労について	福祉サービス	働く人のメンタルヘルスケアについて	その他
前田佳子 木田彩	<ul style="list-style-type: none"> 生活者ネットワークは、災害時の対応や防災施策としての避難計画に福祉的視点を取り入れることを政策にしている。 まずは防災計画や備蓄品の選択など防災・災害施策をつくるときに当事者の声をきくことを基本姿勢にしたい。 避難計画や避難所運営マニュアルには必ず障がい者の意見を取り込み、必要に応じて改定 していくことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ハード面のバリアフリーは、2018年に施行されたバリアフリー新法の考えにのっとり建物・交通機関など一体的に進めていく必要がある。 いっぽう、こうした大がかりな部分だけでなく日常を暮らす地域での細やかなバリアフリー化、例えば歩道の段差や公共施設の使いやすさというハード整備のほか、手話通訳や音声案内、ICTを活用した案内板(タブレットを含む)などコミュニケーション手段の選択肢を増やすなど、ソフト面からのバリアフリーも市として進めていく必要がある。 また、声かけや同行支援という人対人のささえあいのしくみは地域だからこそできること。こうした施策の推進も当事者の方のニーズが何なのか声を聴いてこそできることなので、共に考えていくことが大事。 目頃からハード・ソフト両面からのバリアフリー化をすすめておくことが前述の防災にもつながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者差別禁止条例(障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例)の理念を実現化していくためには、市が条例に沿った施策をすすめていくことが重要。それをチェックするのが議会の仕事なので、当事者の人たちと共に点検していく。 移動手段の確保、情報伝達、コミュニケーション手段の確保、医療及びリハビリテーション、保育、教育、療育と条例の実現化に向けてチェックしていく。 また、合理的配慮の実践や差別意識の解消は障がいのない人や事業者の理解と行動にかかっているため、共に考える場づくりも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の支援サービスから介護保険サービスに移行することで使えないサービスが生じ、生活に支障が出ることもあるという話は聞いている。そうならないように制度をつなぎ保障していくのが自治体行政の仕事。 その人が自分らしく生きる、ために必要なのが支援サービス。縦割りを超え、人が制度に合わせるだけでなく、人が幸せに生きるために制度があるという発想でチェックしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央省庁の障がい者雇用率水増しは生活者ネットワークとしても許されないこととして抗議の声明を出している。 障がい者の雇用は、働く環境を整え体制を整えることにも意味があり社会全体の働き方の見直しにもつながると考える。単なる数字あわせでの雇用でなく、その人らしきを見つめて共に働くという意味も併せ障害のある人となない人が一緒に働くことは大切。 地域では仕事づくりという面でも新しい雇用の場を作り出せる。たとえば農福連携で八王子の農業に障がい者が入り、加工品生産や販売で連携して事業として成立させ、賞金も支払うというつながりが地域で作れるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立のスタイルはいろいろある。就労による経済的な独立だけが自立ではなく、その人に必要なサポートを受けながら、持っている力を活かし生活していくことが大事。 生活の場である八王子で安心して暮らせる福祉サービスを確保することは市の責任であり、一人ひとりが力を発揮できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉は人が相手の仕事であり、心の余裕や体力の余裕が必要。労働時間や賞金など働く人の条件を整えることが大事で必要に応じて東京都や国にも要望したい。 人材育成や人材不足解消の視点では、福祉の現場で働きたい人を増やすためにも障害のある人とない人の接点を子どものころから増やし、理解を深めることが重要。 	<p>児童扶養手当を受けていた人が、障害者年金を受け取ると手当を遡って返金しなくてはならないという事例を聞いたが、障害者の自立生活を妨げている、制度の課題がある。</p> <p>生活者ネットワークで、昨年、農福連携バスツアーを行い、大企業の障害者雇用の取り組みの様子や、生活協同組合が行っている福祉施設の取り組みを見学に行きました。誰もががその人らしく地域で暮らせるように赤ちゃんから障害者、高齢者まで幅広い事業に取り組んでおり、人生でのすべてのステージで必要とされる支援、応援をしていきたいというお話を伺い、八王子市への提案につなげていけたらと思っています。</p> <p>末筆ながら、アンケートの回答が遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。</p> <p>八王子 生活者ネットワーク 前田佳子 木田彩</p>

市議会議員へのアンケート回答

新しく選出されました八王子市市議会議員の皆様へのアンケートを実施した結果、公明党の西本氏、生活者ネットワークの前田氏・木田氏、諸派の若林氏より返答をいただきました。いただいた貴重なご意見を一通り掲載いたします。様々なご意見、問題提起をいただきました。今後の活動の参考にさせていただくとともに、今後とも連携をしながら誰もが住みやすい街づくりを目指していきたいと思っております。ご回答をいただいた皆様、お忙しいところを大変にありがとうございました。(回答は2019年11月07日現在)

お名前	防災について	バリアフリー化について	差別について	共生型社会	就労について	福祉サービス	働く人のメンタルヘルスケアについて	その他
若林 修	近隣市との姉妹都市としての提携を進めることが大切と感じます。災害時、直ぐに医療ケアを再開する為には、場合によっては、被害を受けていない市、特に姉妹都市であれば余計受け入れを迅速に対応して頂けると感じます。また、近隣市にもまたがる災害時には、近隣市への移動も難しくなるので、自家発電機が大切となります！日頃から医療ケア継続する為に、必要な電力を確保する為の電力量を把握し、適切な自家発電が可能となる環境を、助成金等わからなを絡めて対応をする。	様々な障害をお持ちの方に対応できるようにするには、必要な手続きが自宅でも簡単にできるようにICT化を進展させる必要があると感じます！言葉で全て伝えることで、様々な手続きも可能となるシステム構築も近々可能になるのでは？	あらゆる事象を自分を基準に、普通、普通じゃない。幸、不幸。このような価値基準をいつのまにかもってしまう！それが差別の根本のように感じます。受験競争、出世街道を上がってきている方々の中で、苦労をされたことがない方は、常に他者との比較が日々の中に潜在的に出来上がっているはずです。他者との比較は、上下関係に繋がり、差別を助長する！他者との比較、上下関係で社会が回っている限り差別はなくなるらない！日本の未来、子々孫々の為にどのような八王子や日本にするかということを考えるように、先人の知恵を学ぶことが大切で、時間はかかるが、差別の根源を改めることにつながると感じます。	様々な障害をお持ちの方や、生活困窮されている方々が、集まりやすい拠点をつくり、そこでは、相互に支えあい、相互に貢献し合う場とし、衣食住の適切な支援が受けられるような場とする！そのような場を行政との連携のもと、構築する。	農業との連携が解決の糸口と感じます。人材不足の中、様々な役割が必要となる農業は、なり手が減少する傾向があります！有機無農薬で栽培する事を基本とする農業を行うことで、収益性を高め、その食材を幼稚園、保育園、小中学校で使用して、子供達にとってより良い食を頂く機会を増やし、需要と供給のバランスを保ちながら、仕事を確保する！様々な障害をお持ちの方でも、何らかのお仕事を担当できる仕組みや、自らの食も確保しやすくなる。	先に述べました、農業との連携により、屋内の作業を担当して頂く体制を整えることで、動くことじたい難しい方にも適切な役割を担って頂くように体制を整える。	福祉現場では、全てを提供することから、その施設利用者にも、何らかの役割を担って頂き、また、施設周辺の方々に携わって頂き、周辺地域の方々と共生する環境を整えることで、仕事を抱えすぎる傾向を減少させることに繋がります、少しでも負担を減らすことに繋がると感じます！	障害児、者、生活困窮者、ひきこもり、孤立しがちなお年寄り、子供、外国市民が気楽に立ち寄り、そこでは、衣食住の提供ができるように整えられている空き家等を活用した共生ホームや共生農家が整えられれば、障害をお持ちの方も安心して、生涯にわたり、一定の貢献しながらの生活が確保できると感じます。そのような仕組み作りがこれから大切と感じます。